

八丈島と鹿児島島の農村主婦にみる食生活と健康状態について

日本女大家政 ○門倉芳枝 ・ 矢野香織

【目的】 戦後から今日に至るまでの農家生活に変化を及ぼす要因について調査した成績では、食生活の変化を意識している人が、全国的に最も多くみられた。さらに、東京都の八丈島と鹿児島県では、医療、公共施設、交通機関の変化に対する意識が顕著に高かった。これらは、みな、健康と密接に関係するものであるため、この2地区を対象に食生活と健康についての調査を行い、指導の指標を得ることを目的とした。

【方法】 東京都八丈島ならびに鹿児島県に居住する30歳代から70歳代までの農家の主婦を対象に、アンケート調査を行い、その結果の統計解析を行った。対象者数は八丈島が50名、鹿児島が25名であった。

【結果】 八丈島の主婦は、健康状態がよくないと回答する者が20%近くおり、鹿児島の主婦は約50%が健康であり、良くないと回答した者はいなかった。既往症のある人は、前者で約60%、後者で35%と差がみられた。特に、八丈島では、高血圧と甲状腺障害が目立っていた。1日に摂取した食品数は、前者平均15.6、後者19.1であった。特に、前者は10~15の人が、後者は15~20の人が最も多かった。主食の種類は、前者で米が多いが、パンも麺も摂っていた。後者は米が殆どであった。蛋白性食品の中で、前者は魚介類が、後者は豆類の摂取が多かった。野菜類・海草類・果物類では、果物類を除いて後者の方が前者より多く摂取していた。このように2つの地区で全く対照的な成績を示し、これらを気象条件、交通機関の発達、食品流通や自給の状態、食習慣、生活改善普及員の活動などとの係わりを明らかにすることができた。